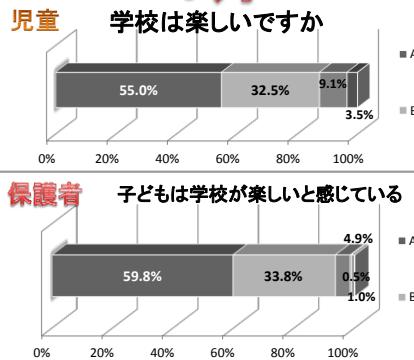


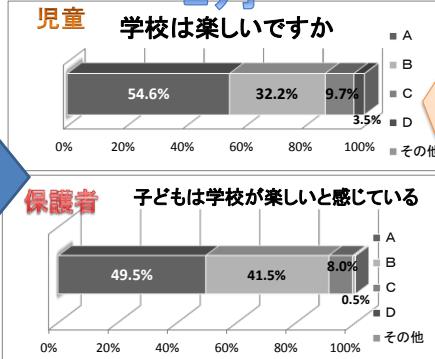
2月に実施しました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。  
各項目ごとの結果を、児童、保護者と並べて掲載し、7月と比較できるようにしています。

【評価項目】 A…よくあてはまる B…おおむねあてはまる  
C…あまりあてはまらない D…全くあてはまらない  
(保護者…学校の取組や、子どもの姿で評価)

7月



2月



## 「学校に楽しく通っているか」

この項目については、7月と比較して児童はほぼ7月と同じ割合での回答でした。保護者ではB「そう思う」の回答は増加しているものの、Aの回答が10%近く減少し、Cの回答が増加していることが分かります。

統合を経て、子どもたちも学校生活に慣れ、子ども同士のもめごとやけんかがよくみられるようになりました。

ぶつかり合うことを経て、子どもたちはたくましく成長している一方で、保護者の方にとっては子どものことで心配することが増えた点で、この結果にも表れているのではないかと考えられます。子どもが「学校は楽しい！」と生き生きと答えられる充実した学校生活が送れるよう、今後も取組を進めています。

児童 つきたい仕事やどんな人になりたいかなど自分の将来について考え、進んで学習していますか

児童 つきたい仕事やどんな人になりたいかなど自分の将来について考え、進んで学習していますか。

保護者 子どもは将来について考え、自分から学習に取り組んでいる

保護者 子どもは将来について考え、自分から学習に取り組んでいる

児童 学校のきまりや社会のルール、マナーをしっかりと守っていますか

児童 学校のきまりや社会のルール、マナーをしっかりと守っていますか

保護者 学校のきまりやルール、マナーをしっかりと守っている

保護者 学校のきまりやルール、マナーをしっかりと守っている

## 「将来の見通しをもって進んで学習しているか」

この項目については、児童、保護者共に建設的な回答が増えています。自分から学習に進んで取り組むという姿勢が、少しずつ意識されつつあるということが、この結果にも表れています。プレジョイントプログラム・ジョイントプログラムテスト等の結果からも、がんばった分が結果に表れている児童の姿も見られます。結果に結びつくという手ごたえを児童が実感できていることも本項目の回答状況からも推察されます。

「何のために学ぶのか」という答えを自分なりにもつことが、見通しをもった主体的な学びにつながります。「将来〇〇になりたいから」「苦手な〇〇でテストの点をあげたいから」「きれいな字を書きたいから」など、些細なことからでも学びに向かう目的を子ども自身が見つけられるような学校・家庭での働きかけを大切にしたいですね。

児童 朝ごはん、早寝、早起き、歯みがきなど、毎日の生活のリズムに気を付けて生活していますか

児童 朝ごはん、早寝、早起き、歯みがきなど、毎日の生活のリズムに気を付けて生活していますか

保護者 睡眠時間や朝食、歯みがき、排便などの生活習慣が身についている

保護者 睡眠時間や朝食、歯みがき、排便などの生活習慣が身についている

## 「学校のきまりやルール、マナーを守っているか」

7月と比較して、A「しっかりと守っている」と回答した児童が若干の減ですが、B「守っている」という回答が増加しています。保護者ではA評価が増加しています。大人の目から見て、子どもたちの意識は向上しているとらえているが、子ども自身は厳しく評価していることが推察されます。

「きまり・マナー・ルール」どれも似たような意味に聞こえますが、広辞苑および新類義語辞典には、次のように書かれていました。

- ・【きまり】決められたもの。規則。→【規則】行動の基準となる明文化されたまり

- ・【ルール】公正に行うための規則。・【マナー】態度。行儀作法。

いずれも、「多数の人々が共にくらす中で混乱なく過ごすため、またお互い気持ち良く過ごすために設定されているものである」ことは、大人は判っていることです。つい自分のことだけを考えがちな子どもたちに、周りを見る目を養うのは私たち大人の役割です。今後も学校・家庭・地域で同じ目線で子どもたちに決まりやルール、マナーを守る意味、大切さを伝えていきたいです。

## 「生活習慣が身についているか」

児童・保護者は「しっかりとできている」「できている」というA・B評価の合計が増加している一方、A評価のみで見ると、減少していることが分かります。

生活習慣の乱れは、冬休み明けに実施した「生活がんばり表」にも表れています。

学校運営協議会理事会でも、子どもたちの生活習慣について話題に上りました。特に近年、スマートフォンの利用により、「ゲーム」やYouTubeなどの「動画視聴」、LINEなど友だちとの「SNSのやりとり」により、夜遅くまで利用し、朝起きられなくなっている児童もあります。

「朝、8:25までに学校に登校する」という当たり前のことができるなくなる危険性もはらむ、これら情報メディアの扱い方については、学校でも、情報モラルに関わる授業をはじめ、各学年の実態に応じて指導を続けていきます。

保護者の皆さまにも今一度、家庭内のルールをしっかりと定め、子どもたちの利用についてきちんと管理していただきますよう、お願いいたします。

日々の自分の生活をコーディネートできるような学校・家庭での取組を進め、子どもたちの成長の基となる「健やかな体」づくりを進めていきたいと思います。

7月

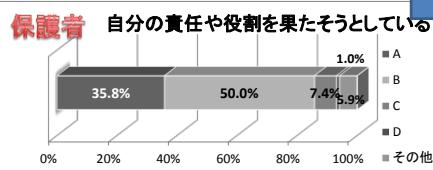
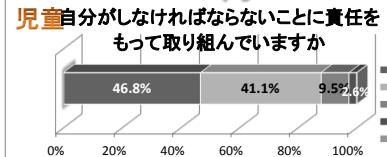
2月

## 「自分の役割に責任をもって果たそうとしているか」

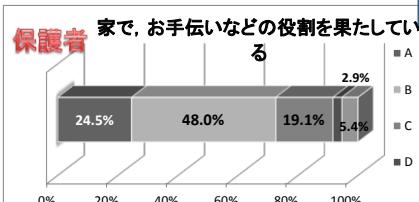
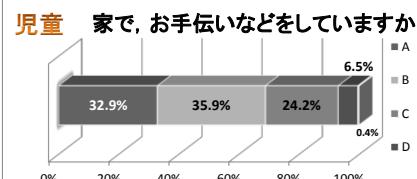
児童・保護者は7月と比較して大きな増減は見られないが、8割以上が「できている」と評価しています。

「あなたに任せたよ」という責任ある役割を与えられることは、その子どもにとって「自分はこの家族・集団の一員である」という所属感を得られるとともに、与えられた役割をやりきったという達成感、役に立ったという貢献感を味わうことにもつながり、自己肯定感が向上し、主体的に行動しようとする意欲につながります。

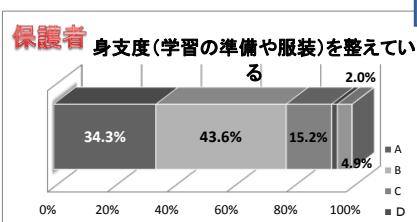
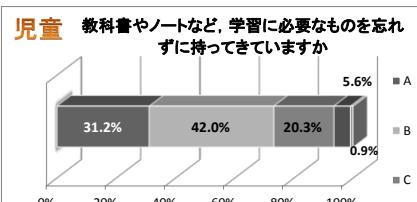
「子どもに任せる」「自分で考えさせる」といった場面を学校または家庭で意図的に設定し、日々の小さな積み重ねを大切にしていきたいですね。



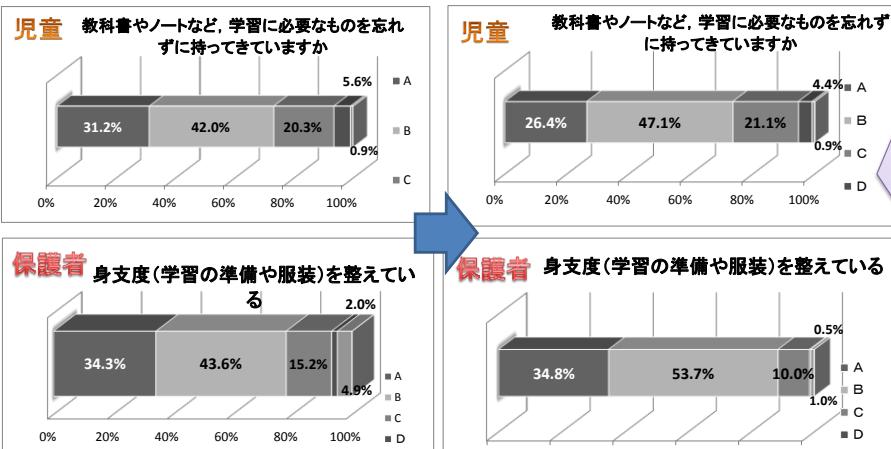
**保護者**自分の責任や役割を果たそうとしている



**児童**家で、お手伝いなどをしていますか



**児童**教科書やノートなど、学習に必要なものを忘れずに持ってきてていますか



## 「お手伝いなどの役割を果たしているか」

児童・保護者ともにA・B評価が若干増加しています。進んで誰かのために、何かのために行動できる児童が増えていると評価していることが分かります。

実生活で生きてはたらく力は家庭科や生活科などの授業だけではなく、全ての授業において「ものの考え方、捉え方」「自分の行動の在り方」を養うことにつながる、という意識をもつて日々の授業づくりに取り組みたいと思います。

ご家庭では、上の「協力」の項でも述べていますが、与えられた役割をやりきること、自分のしたことが家族の役に立ったという貢献感を味わえることが大切です。

「お手伝いをする」という意識から、「家族の一員として家の仕事を受け持つ」という意識へと変えるためにも、ご家族で話し合って、責任ある家庭の仕事を一つ、決めてみるのもいいですね。

## 「身支度を整えているか」

「十の大切」のうち、「身支度を整えよう」に関する設問です。

保護者は「よくできている」「できている」というA・B評価が増加しています。

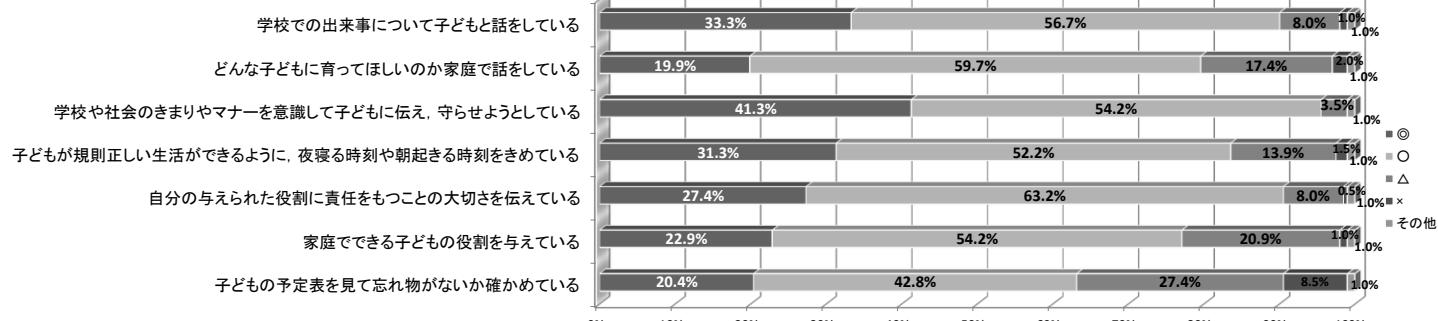
学習準備など学校、家庭からの日々の声かけにより、子どもたちに習慣づいてきていることは子どもたちの様子からもうかがえます。

しかし、「できていない」というC以下の評価をしている児童が20%を超えていた点については、どのような点においてそう評価しているのか、見ていて面白い見どころがあります。

学校では、毎週配布する「学習予定表」に、持ち物やその日の宿題を記入できるようにしています。(中学年以上は、学習時間を書く、持ち物チェック欄を設ける、自分で学習計画を立てる、など自主的に活用できるようにしています。)

学習準備を含め、自分のことを自分で管理する方法を身に付けられるように、学習予定表を学校、家庭で今後も継続して活用していくようにしたいと思います。

## 後期 保護者アンケート結果一覧2「そのために」ご家庭では



### 学校運営協議会理事会の皆様・地域の皆様の声より

～朝の見守り活動について～ 3月1日(木)見守り隊会議より

・朝のあいさつの子どもたちの様子が変わってきた。顔を見て「おはようございます。」と大きな声で返事を返してくれる子どもが増えて、うれしい。

・見守り隊の新規募集をしたい。新校も見据え、見守り活動に協力していただける方を増やして、子どもたちの安心・安全のための活動をより充実させたい。

～子どもたちの生活習慣について～3月6日(火)学校運営協議会理事会より

・朝、遅刻して登校する児童の姿が気になる。アンケート結果を見ても、生活習慣の確立に課題が残ることが分かる。最近、スマートフォン等でのゲームや動画視聴、SNSに夢中になるあまり、就寝時間が遅くなり、朝起きられない児童が出てきている。学校での情報モラル教育、保健教育などの取組を中心とした日々の働きかけと、家庭でのきちんとしたルール作りと管理、この両輪で子どもたちの健康な体と心づくりに努める必要がある。